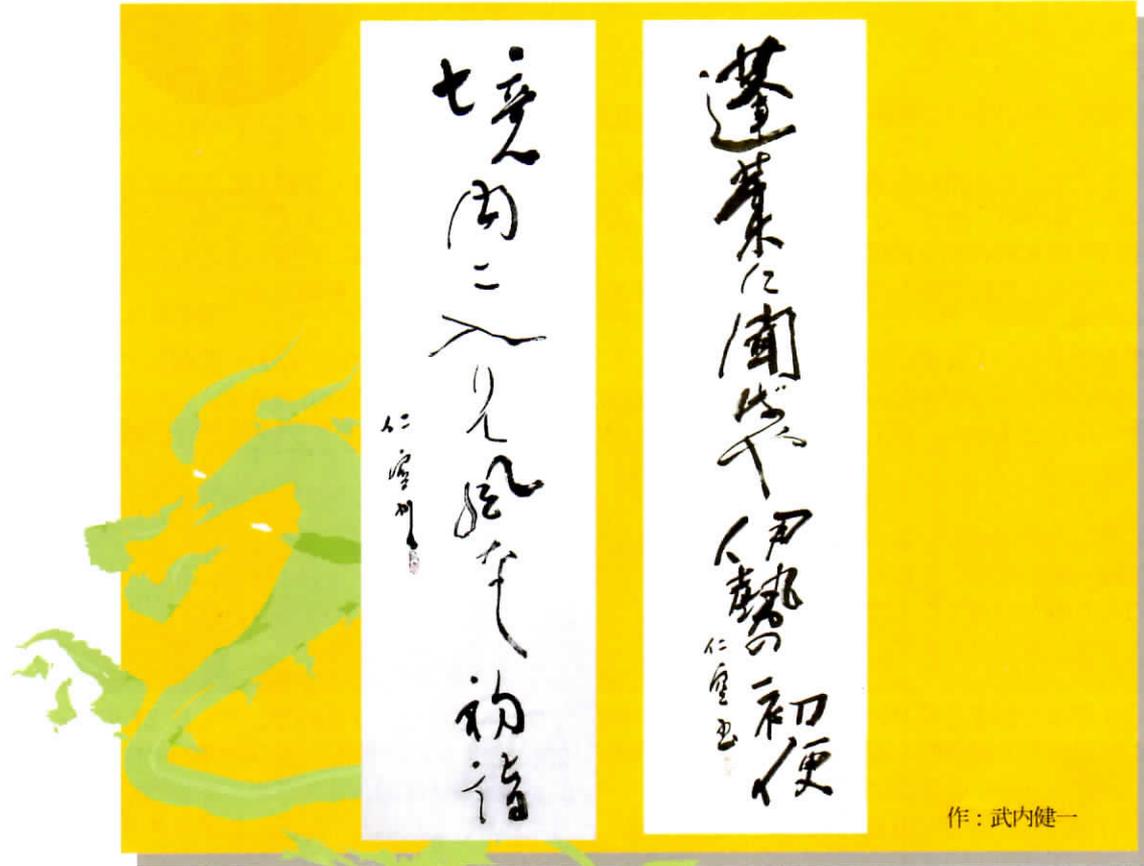




ふれあい

(題字 院長 佐々木崇)



作：武内健一

【基本理念】

私たちは、医の倫理に高い視点をおいて高度急性期医療に携わる誇りと責任をもち、患者、家族との相互理解を深めて県民に信頼される親切であたたかい病院をめざします。

- 目次 -

辰年 院長：佐々木 崇	2
院内諸室の一部再編構想まとまる	3
薬剤部のご紹介	4
検査部のご紹介	5
ふれあいポストから	6
岩手県知事表彰	7
クリスマスコンサート	7
お知らせ・編集後記	8

【行動指針】

- 1 私たちは、十分な説明をおこない、良質で安全安心な医療をめざします。
- 2 私たちは、医学、医療の研鑽に励み、本県医療水準の向上につとめます。
- 3 私たちは、県内医療機関との機能分担・連携のもと、高度医療と救急医療を提供します。
- 4 私たちは、本県医療の確保のため、地域医療機関への診療支援に努めます。
- 5 私たちは、甚大な被害を及ぼす災害にも対応できる医療体制を整えます。
- 6 私たちは、臨床研修体制を充実させ、国民の期待する医師の養成につとめます。
- 7 私たちは、健全経営につとめ、効率的な病院運営をめざします。

※ 広報誌「ふれあい」は1,700部を作成し、県民、連携医療機関、行政機関等に岩手県立中央病院の情報をお届けしています。

“ 辰 年 ”

院長 佐々木 崇



新しい年を迎え、みな様のご健勝そしてご多幸を心よりお祈りいたします。

辰年ということで、その謂れを調べてみましたが、“辰”、原字は“蜃”。(漢書・律曆志によればと書かれていますが、)“動いて伸びる、整う”を意味し、草木が盛んに成長し形が整った状態を表す、とのこと。方角は東南東、辰の刻は午前8時の約2時間です。一日24時間のなかでの8時前後は春に相当し、とくにも厳しい東北の冬を耐え忍んでやっと訪れた暖かな日々に一斉に花も咲き誇る、そのような時と解釈します。

旧年は予想もできない大災害に見舞われました。癒えることのない悲しい現実、なおも苦悩しておられる方も大勢いらっしゃると思いますが、皆さん、これからは希望を持ちながら少しずつ歩み始めています。同じところにいつまでも佇むわけにはいきません。新しい年です。“みなで一緒に頑張ろう”と、ともに声を掛け合い前進したいと思っています。

昨年暮れに救急医療部からひとつのデータが報告されました。第9回管理会議資料の40～41頁に“救急受診入院患者平均年齢年間別推移”として掲載していますから、ご覧になった方も多いと思います。今年、そしてこれからの医療への取り組みを考える上で非常に貴重なデータであり、高度・急性期医療を担う自分たちの病院から出されたことに大きな意味があります。

19年から23年まで毎年平均0.8歳ずつ入院患者の年齢が増加しているというもので、とくに21年からの2年間の高齢化の推移はどの診療科も顕著です。いわゆる団塊の世代といわれる圧倒的に人口の多い年代がいよいよ高齢化を向えていることがその背景にあると考えられます。ちょうど私の年代から数年下までが該当しますが、これから80歳前後になるまでの約10数年間はこの状態は続くと考えられ、この始まりを捉えたデータということになります。

高齢者医療は高齢者ゆえの特性、とくに多様な基礎疾患を抱え免疫能や運動能の低下など患者ご本人を悩ませ、一端病気になってしまうと医療者に求められるスキルと労力はたいへん大きいものになることを日常経験します。合併症の発現をいかに制御するか、日常に早く戻してあげるためにどのような手立てを講じていくか。医療者のチーム力は高齢者医療では非常に顕著に結果に現れます。そして在宅診療、他病院・他施設との連携など地域医療連携なしでは高度・急性期医療は成り立たなくなります。



中央病院には、いつもたくさんの患者さんがお見えになります。これからも高度・急性期医療を行い、しっかりと県民を支えていくことに変わりありませんが県民、国民の医療へのニーズは明らかに高齢化への対応を求めており、今まで以上にチームワークに基づいた高度・急性期医療としての質を問うていると考えられます。

“昇り龍”、さらに高みに向けて中央病院が一体となって歩み続けることができることを心から願っています。

院内諸室の一部再編構想まとまる

～地域医療福祉連携室の機能強化等に向けて～

これまで当院の懸案事項となっていた何点かの課題に対する具体的な取り組みとして、このほど院内諸室の一部再編整備、用途変更等に関する構想がまとまり、現在、構想の具体化に向けた作業が進められています。条件が整えば平成23年度内にも具体的な作業に着手し、完了させる方向となっています。

この構想の実現により、現在当院が抱える諸課題のうち、①地域医療福祉連携室の機能強化、②大災害時等、有事における災害対策本部設置スペースの確保、③医療クラークの体制強化、等の当院が抱える懸案事項が改善、解決の方向に向かうことが期待されているほか、整備に伴う二次的な効果も挙げられています。

今後、この構想に伴う作業等の過程で各部門、各職員にもご協力をいただく場面も出てくることも考えられますが、ご理解をお願いします。

再編構想の主な内容とその目的、期待される効果等については、次のとおりです。

1 地域医療福祉連携室ミーティングスペース及び災害対策本部スペースの確保

現在、1階事務室内の業務企画室が入居しているスペースの一部を、新たに地域医療福祉連携室スタッフのミーティング等スペースとして整備します。これにより、院内各所で地域連携等の業務にあ



現在の地域医療連携室(1階)

たるスタッフ間の認識や情報の共有を図り、一体的な活動の促進するスペースとして確保されます。

同時にこのスペースは、先の大震災や最大余震の際のように、中長期にわたる災害対応が必要となった場合等に、病院の災害対策本部を設置するスペースとしても想定します。災害対策本部に必要な物品等も常備し、情報入手、外部連絡の機能、設備も備えた機能性、機動性を持ったスペースとして最大限活用できるよう整備します。

2 業務企画室（一部）の移設

現在、1階事務室に入居している業務企画室は、一部（地域連携室スタッフ）を除き、現・3階第2会議室を改装し入居します。また、併せて現・3階第2会議室には、現・4階医療クラーク室の機能、スタッフも移転します。

これにより業務企画室が担当する業務に密接に関連する医局、研修医医局、図書室、視聴覚室等と近接し、関係職員間の協議や研修会等の準備、運営等の円滑化等の効果が期待されます。

また、業務企画室員と統括する医療クラーク室のスタッフが互いに顔の見える場所に勤務し、医師等も含め日常的にコミュニケーションをとれる環境が確保されることにより、業務の効率化と機能の底上げの効果が医療クラークはもとより、業務面で密接に関係する職員まで及ぶことが期待されます。

3 医療クラーク室の会議室等への転用

現・4階医療クラーク室を会議室等に転用します。

現・3階第2会議室が業務企画室（医療クラーク室）に転用されることに伴い、不足が懸念される会議スペース等を補おうとするものです。



現在の医療クラーク室(4階)

当院の事業運営方針の中の最重点事業項目のひとつとして「戦略的地域連携室の構築と地域連携パスの推進」が掲げられています。

高度・急性期の医療を主に担い、医療の質の向上と経営の質の向上の「両立と実践」、「Double Winner!」（ダブルウィナー）をスローガンに掲げる当院の経営戦略上、地域連携は生命線の一つであり、その機能強化は重要な課題のひとつとなっています。

従来より地域連携機能の強化を図るための方策として、多職種からなる地域連携関係スタッフがそれぞれの業務に直結する執務室、相談室等の関連諸室、所要の設備等とともに一体的に業務を行うことの重要性については十分認識され、これまでも実現に向けた検討も行われてきた経緯がありますが、関連する個々の業務の特性や当院の施設構造・設備上の制約、予算確保等の問題から、これを直ちに実現するためには多くのハードルが存在することも確認されてきました。

今回の再編構想の内容は、これまで地域連携の拠点の整備構想として検討されてきた形態とは若干異なり、作業期間や経費等も必要最小限によるものですが、今後、さらなる機能、体制の強化に向け、具体的に踏み出す大きな一歩となることが期待されています。

薬剤部紹介

薬剤部長 佐藤 勝彦

薬剤部では、「県民に信頼される親切で温かい病院」という病院理念の基に『病める患者様を中心に考える薬剤師』、『信頼される薬剤師』を目指しております。また、近年の高度医療、そしてチーム医療に対応すべく、薬の専門職として医薬品の安全管理・適正使用・患者様に対する情報提供等の業務を通じ、臨床薬剤師として成長していく様、薬剤師一同日々研鑽しております。

平成 23 年度 各種専門・認定薬剤師数

名称	認定機関	人数	名称	認定機関	人数
がん専門薬剤師	日本病院薬剤師会	2	感染制御認定薬剤師	日本病院薬剤師会	1
がん専門薬剤師	日本医療薬学会	1	NST 専門薬剤師	日本静脈経腸栄養学会	3
がん指導薬剤師	日本医療薬学会	2	糖尿病療養指導士	糖尿病指導士認定機構	2
がん薬物療法認定薬剤師	日本病院薬剤師会	2	実務実習指導薬剤師	日本薬剤師研修センター	4
日本医療薬学会認定薬剤師	日本医療薬学会	2	生涯認定薬剤師	日本病院薬剤師会	18
研修認定薬剤師	日本薬剤師研修センター	13			

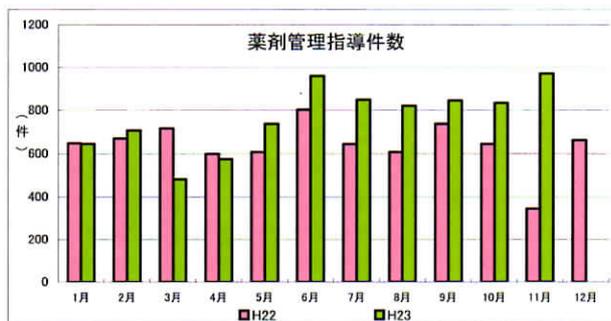
薬剤部業務紹介(薬剤管理指導業務、化学療法調製業務について)

《薬剤管理指導業務》

入院中の患者様が、薬を正しく使うことができるよう、薬剤師が直接病棟へ出向き、患者様のところにお伺いして説明しています。その際には、薬の効果・使い方・注意点などをお伝えし、薬に関する様々なご相談に応じます。さらに、患者様の薬に関する情報を管理し、副作用の防止など適切な薬物治療に向けて、他の医療スタッフと連携し患者様の治療のお手伝いを行っています。

また、生活習慣改善入院で入院中の患者様には、病気と薬について説明する教室を開いています。

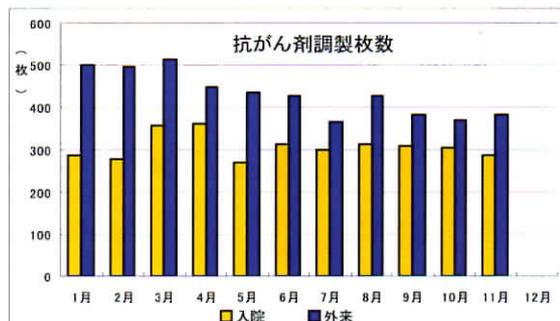
できるだけ多くの患者様のところに訪問できるよう、薬剤部内で協力し取り組んでいます。



《化学療法調製業務》

外来・入院全ての化学療法(抗がん剤治療)を受けられる患者様の薬は薬剤師が投与量、投与時間、投与速度、投与間隔などのチェックを行い、清潔な環境で無菌的に混合調製しています。また、院内で使用されるレジメン(抗がん剤の治療計画)の審査に携わり、副作用対策の薬の選択について提言を行うなど、適正な治療が行われるためにレジメンの管理を行っています。

化学療法を受けられる患者様は年々増加し、治療内容も複雑になってきていますが、医師・看護師と連携し、患者様が安心して安全に最善の治療を受けていただけるよう取り組んでいます。



薬剤部では、他職種と連携し、安全・安心な医療に貢献する為、

日々、医薬品の適正使用に向けて取り組んでいきます！

中央検査部の紹介

私たち中央検査部は夜勤体制をとり、24時間診療に役立つよう検査しています。
緊急の検体検査は検査室到着後、約30分で報告し、インフルエンザなどの迅速検査も行っています。
検査結果を出すだけでなく、新たな検査室の役割として様々な形でチーム医療に参加しています。

- ・ICTへの参加
 - ・院内の感染症情報の作成
 - ・NSTラウンド
 - ・褥瘡対策
 - ・血液内科ミーティングへの参加
 - ・輸血の一元管理：血液センターへの発注から製剤の在庫管理まで
- ※輸血専従の検査技師が常勤していることが輸血管理料Iの算定基準となっています



また、研修医教育としてグラム染色の仕方、エコー検査などの指導も行っております。

<検体検査>

- ・生化学検査
- ・免疫学的検査
- ・血液学検査
- ・輸血関連検査



- ・一般検査
- ・細菌学検査
- ・病理検査
(細胞診、細胞組織検査)

<生理機能検査>

- ・心電図検査 (12誘導心電図、負荷心電図)
- ・肺機能検査
- ・血圧脈波検査(PWV/ABI)
- ・皮膚灌流圧(SPP)
- ・骨塩定量検査
- ・超音波検査
(心臓・腹部・血管・乳腺など)
- ・ホルター心電図
- ・脳波検査
- ・聴性脳幹反応(ABR)検査
- ・睡眠時無呼吸検査(簡易型)



<検査部から情報発信>

毎月1回広報誌を発行し、リアルタイムな情報を提供したり、患者さん向けに冊子を作成して、検査室の紹介などしています。



<採血業務の様子>

トロンボテストや一部の至急検査の採血を行っています。



<認定技師の紹介>

- ・認定輸血検査技師
輸血に関する正しい知識と的確な検査により輸血の安全性向上を目指し、輸血業務全般の安全管理にも大きな役割を果たしています。
- ・認定臨床微生物検査技師
微生物学・感染症に関する専門的知識をもち、感染対策チームのメンバーとして院内感染の予防・治療に携わる技師です。
- ・超音波検査士
循環器・消化器・泌尿器・産婦人科・体表面の臓器の超音波検査に必要な知識・技術を認定するものです。
超音波医学並びに医療の向上を図ります。
- ・細胞検査士
医師の指導監督のもと、採取した検体(喀痰、尿、乳腺穿刺物など)を顕微鏡で観察し、悪性細胞の検出をはじめ、様々な疾患の診断に有用な情報を提供します。
- ・緊急臨床検査士
日本臨床検査医学会が当該部門の学識・技術を認定したもので、生理学、臨床化学、血液学、血清学、微生物学などの検査を通して医療をサポートします。
- ・日本糖尿病療養指導士
糖尿病とその療養指導に関する幅広い専門知識をもち、適切な自己管理が行えるように援助する役割をもちます。

「ふれあいポスト」から

当院には各病棟、1階正面受付付近、1階売店付近に「ふれあいポスト」が設置されており、広く当院を利用される皆様から投書の形で、当院の運営方針、職員の接遇、施設・設備等に関するご提言をお寄せいただいておりますが、このふれあいポストにいただいたご提言は、当院の運営にどのように活用されているかご存じでしょうか。

お寄せいただく投書の内容は、厳しいお叱りの言葉、病院への改善要望、職員への激励の他、具体的なご提案等、多岐にわたっています。

いただいたご提言は、全て関係部門の責任者に伝達される他、病院の最高責任者である院長をはじめ、幹部職員に全て報告され、併せて解決・改善に向けた対応指示等が行われます。

さらに必要に応じ、ご提言をいただいた方へ直接説明、回答することや、参考事案として院内へ各部門に広く周知することなども行われています。

このように、いただいた投書、ご提言に真摯に向き合うことで、当院を利用される方の視点で物事を捉えること、解決、改善に向けた様々な創意・工夫が生まれること、職員の接遇レベルや意識の向上が図られること、等につながっているものと考えています。

投書の一部をご紹介します。

- ・ 子供が熱を出し受診しましたが、スタッフの心ない言葉の数々に不快でした。待ち時間も長く、受付の方に尋ねても曖昧でした。私だけではなくそのように感じる方も多いと思います。気をつけてほしいです！
- ・ 職員にわからないことを聞いたりするにも、目の前に立っていて話そうとしてもすごく対応が悪いと思います。普通に接しているのだと思いますが愛想もなく話されると、もう話すのを止めてしまう、聞くに聞けません。初めて来たりしたら驚きますね。
- ・ いつも感じるのですが、病室のカーテンは必要に迫られる時以外はせめて半分は開いて外の景色が廊下側の人にも見える様に改善していただければと思います。薄暗くて新聞も読めない状態にストレスがたまります。病室に公平に光が差し込みますように。

- ・ よく気がつく人というのは、ただ仕事として役をこなしていればよいというのではなく、プラスアルファとして患者のことを思っている人だと思えます。

痰の吸引をお願いすると「さっき吸引したけど」という人がいる一方で、「痰、大丈夫かな」と言ってくれたり、吸引しながらも、床ずれしないマットに替えることに気づいてくれる人もいます。

- ・ 電子カルテのために仕方のないことかもしれませんが、パソコンに向かって打ち込んでいる姿ばかりが目につき、患者と向き合う時間の何と少ないことか考えてしまいます。もう少し、一声でも多くの言葉が欲しいです。
- ・ 早朝、私服の人たちが地下に降りるのにエレベーターを使用しているのを何度も見かけています。多分病院関係者だと思います。今、世間では節電、節電と言われている中、職員にはどういう指導をしているのか。ちなみに私は病棟まで階段を利用している。

いかがでしょうか。ふれあいポストに寄せられる投書の多くは、こうした病院の運営、職員の対応、施設・設備の不備等に関する苦言、不満の声です。

色々な事情で改善が難しいもの、ひとり一人の意識を変えることによって解決可能なものなど様々ですが、心に宿った感情、不信感の強さや、職員個々の言動がいかに関心の方々に注目され、細かく観察されているかが伝わってくる内容の数々に改めて襟を正す必要を感じます。

そして、職員の対応、特に初期対応のわずかな違いで問題が複雑化、長期化してしまうということも強く感じられます。

一方で、ふれあいポストには病院、職員に対する激励、お声掛けの投書も少なからずいただきます。こちらの一部をご紹介します。

- ・ ○年前に手術を受けて以来ずっとお世話になっています。職員の方々から細かい心遣いをたくさんいただきました。退院の前日の夕食についたカードには私の名前に一直線にピンクの色がついていて何だか「退院おめでとう」と祝って下さっているようでうれしくな

りました。今もカバンの中に大切にこのカードがお守りのように入っています。

- ・ 私はここにきて大変いい先生に会いました。朝となく夜となく部屋にやってきて、がんばっているか、と毎日声をかけてくれます。特に家に帰る前日の夜にも来て私の手を握り、がんばれ、と言ってくれたときは私の体に電気がビリビリ来ました。夜に電気が消えた時、熱い涙がポロポロ止まりませんでした。
- ・ 長かった闘病生活も終わりの方に近づいてきました。先生からは僕の病気の話を聞かされて驚きましたが毎日のように僕の体の様子を心配してくれてとても心強く勇気づけられ、順調にここまで来れたのも先生と優れた医療チームの皆さんのおかげでした。40度くらいまで熱があがった時、看護師さんが朝早くから夜遅くまで氷枕や湯たんぽを持ってきてくれた時には感謝の気持ちでいっぱい、本当に助かったと何度も思いました。
- ・ ○年ぶりの入院でした。建物は昔と変わりませんが内容が変わっているので驚きました。救急で入って以来スタッフの対応には感謝しています。特に看護師さんの対応は素晴らしいと思います。例えば「わかりません」の返事は全くありません。患者の要望に対処する姿勢に感動します。この人たちは若くして望み、目標を持っていることがはっきりわかります。願わくばこの若者の集団のお一人ずつが素敵な人々であり続けていただきたい。社会も病院もこの人たちが上手に働けるように守って欲しい。掃除の人たちも良く働き良い人たちでした。院内の連携なども感心しました。これだけの組織体制を作り、維持される方々に感謝します。

いかがでしょうか。続けて読むだけで何となく元気が出るような感じがします。しかし、こうした投書からも、本当にこのような励みや感謝の声に恥じない行動をしているか、と省みる気持ちも湧いて来るような気がしませんか。
注・今回ご紹介した投書は掲載用に内容を一部抜粋する等しています。



岩手県立中央病院が岩手県知事より表彰を受けました

平成23年11月22日、平成23年度岩手県職員表彰式が、岩手県民会館で行われ、中央病院が業績顕著者（機関）として知事表彰を受けました。表彰式には田巻統括副院長が出席し、達増知事から表彰状を受けました。

本表彰は岩手県行政の推進に著しく貢献した個人及び団体に対し県知事はその功績を称え県行政の一層の充実強化に資することを目的としています。

当院の今回の受賞は、

【事績】

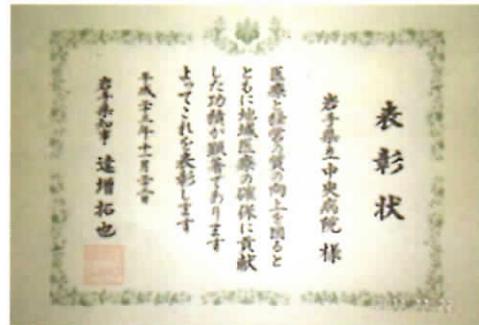
「医療と経営の質の向上を図るとともに地域医療の確保に貢献した」

【概要】

「数次にわたる経営改善計画に基づき、医療と経営の質の向上を図るとともに、県立病院のセンター病院として地域医療の確保に貢献した」

というものです。

当院では、これを機に、より一層、医療と経営の質の向上を図るとともに地域医療の確保に益々努めてまいります。



楽しかったクリスマスコンサート

イルミネーションの綺麗なクリスマスツリーのある1階ホールへ、大勢の患者さんが集まり始まりました。最初に、ちょっと緊張した元気なあゆみ保育所の子ども達の登場、かわいい歌声で会場のみんが笑顔になりました。あゆみっ子たちはサンタさんからプレゼントを頂き、きらきらした笑顔でうれしそう。中には何が入っていたのでしょうか？そして、カレイドスコープの皆さんの演奏。ベルを巧みに操り澄んだ美しい音色にうっとり、一気にクリスマスの雰囲気。フルート、ピアノ、澄んだ歌声で疲れている心が洗われ、「おひさま」では、感激して涙が出ました。上田中学校の生徒さんからは、サンタとトナカイによる頼もしい司会進行で、クリスマスソングのメドレー、合唱など力強い歌声、マジックショーでは3本の紐が1本になり拍手喝采でした。

最後に、会場にいる皆さんと一緒に「もろびとこぞりて」を歌い、楽しい時間を過ごしました。患者さんからは、「感激して涙が出ました。楽しかったです。ありがとうございました。」と感想を頂きました。最後に、毎年、協力していただいているあゆみ保育所の子ども達、上田中学校の生徒さん、カレイドスコープの皆さんありがとうございました。



◇ 採用退職 ◇

○ 採用

10月1日	脳神経外科医長	横沢 路子
10月1日	ICU 医師	梨木 洋
10月1日	麻酔科医長	大河 晴生
1月1日	消化器外科医長	加藤 貴志
1月1日	腎臓内科臨時医師	中道 崇

○ 転勤

11月1日	看護師	石塚 由佳	釜石病院
-------	-----	-------	------

○ 退職

9月30日	脳神経外科医長	高田 志保美
9月30日	消化器外科医長	手島 仁
9月30日	麻酔科医長	鈴木 道大
12月31日	看護師	津端 理恵
12月31日	看護師	綱干 奈央
12月31日	看護師兼助産師	留場 麻里奈
12月31日	主事	島崎 亜紀子

岩手県立中央病院健康講座のご案内 (入場無料・事前申込不要)

心臓と腎臓のおはなし

【日時】 3月11日(日)14時～16時30分(受付は、13時30分～)

【会場】 プラザおでって 3階おでってホール

【演題】

1.最新の心臓治療から日本の医療の問題点まで

副院長 田巻 健治

2.ためになる慢性腎臓病のおはなし～腎不全にならないために～

腎臓内科長 相馬 淳

3.塩分は控えめに！普段どのくらい塩分をとっているの？～腎不全にならないために～

管理栄養士 瀬川 さゆり

編 集 後 記

辰年にちなんで：タツノオトシゴの養殖というのをご存じでしょうか？タツノオトシゴは成長時の水管理が微妙で動いている物しか食べないため、幼魚のみならず成魚を育てるのが非常に困難だとの事、その困難にも負けずに幾年の歳月、努力、多大な財産を費やしようやく安定した出荷ができる様になったとの事です。タツノオトシゴは腹部にある卵囊で雄が卵を育て孵していくのですが、雌が雄の卵囊に卵を産み付ける時の姿全体がハート型に見えることや、一度カップルになると生涯同一カップルであること、その愛らしい容姿も含め夫婦円満の象徴とも言われており、各地の水族館に供給しているだけでなく中国では精力増進薬の材料として珍重され人気があるようです。努力が報いられるというのは、それが困難なものであればあるほど得る物は大きいのでしょう、震災復興の努力も報いられることを祈ってやまない今日この頃です。

小児外科長 島岡 理



中央病院広報委員会

◆委員長 島 岡 理

望 月 泉	小笠原 秀 俊
山 本 順 子	宇 部 健 治
後 藤 由美子	佐々木 美 奈
田 沼 睦	盾 石 有
横 澤 淳 司	小笠原 静 江
上 平 浩 之	吉 田 奈 穂 子

ふれあいNo256 平成24年1月 発行


岩手県立中央病院

「ふれあい」はホームページでもご覧いただけます。

〒020-0066 岩手県盛岡市上田1-4-1

電話 019-653-1151 Fax 019-653-2528

<http://www.pref.iwate.jp/hp9001/iphs/chuohp/>
R70

古紙パルプ配合率70%再生紙を使用